

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	諫早市手をつなぐ多機能型事業所つくし		
○保護者評価実施期間	R8年1月17日		～ R8年2月21日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33世帯	(回答者数) 28世帯
○従業者評価実施期間	R8年1月17日		～ R8年2月7日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数) 9名
○事業者向け自己評価表作成日	R8年3月2日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> ・利用児童のコミュニケーション力の向上 ・地域や学生の障害特性の理解促進 ・社会生活スキルの向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域団体・学校との交流活動 ・地域や法人内事業所を活用した、社会体験学習 ・将来を見据えた、社会生活スキルの獲得を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的、持続的な交流活動の計画 ・社会体験学習の事前学習、実践、振り返りの実施し、次の活動に活かす
2	<ul style="list-style-type: none"> ・法人内に他職種の事業所が存在し、ライフステージに応じた情報共有の機会を提供している ・利用児童の体験学習や勉強会、おしゃべり会の実施により将来のイメージが持てる 	性やサービスについての勉強会、テーマを設けたおしゃべり会の機会、情報提供を行なっている。	勉強会やおしゃべり会の定期的な開催 <ul style="list-style-type: none"> ・児童の強みを知る ・安心して将来を見据えられる。 ・支援のニーズの把握
3	手作りおやつやの機会や自分で作って食べる経験できるように日々取り組んでいる。	アレルギーを持っている児童に対しては、保護者に確認を行い、提供している。 リクエストを聞き、取り入れられるメニューは対応している。 どんなおやつを食べたか、保護者にLINEで報告することで、食への興味が広がったと報告を受ける。	準備や片付けの中で、自分で出来ることは自分でやってみようという意識を持てるよう取り組んでいく。 食に対する興味を高め、偏食や食べたいという気持ちを養う。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	障がい特性に応じた環境設定や支援スキルの向上を高めていく必要がある。	強度行動障害の支援や個別にサポートが必要な児童に対しての支援スキルの向上が求められている。	障がい特性の幅が広がっているため、より専門的な研修や外部の技術指導、勉強会を受け、情報共有や意見交換の機会を設ける。直接支援の中にアウトプットし、支援者のスキルアップを目指していく。
2	細かい支援の内容が分かりにくいことがある。	個別支援計画に沿った支援で細かい内容を分かりやすく説明する。	個別支援計画の説明時に限らず、活動報告や送迎時など、どんな支援に取り組んでいるのかを伝えるように工夫していく。定期的な面談を実施し、支援について話す機会を設けていく。
3	保護者交流活動を通して関わる機会が多い保護者と、参加の機会が少ない保護者との差が大きい。送迎の兼ね合いで保護者とお会いする機会は少ない家庭がある。	活動に保護者やきょうだいの参加機会を設けているが、活動に参加したいと思っている方の参加できるような工夫が必要。今まで参加の難しかった方にも参加いただけるような工夫をしていく。	保護者に対しては、おしゃべり会を定期的に開催できるように、時期や時間の検討を行い、日々の子育てについてや将来についてなどを気軽に話ができる機会を設けていく。きょうだい児に対しては、親子で楽しみながら活動に参加できるように計画していく。